

## JA西三河より西尾市へ 市の農業施策に関する要請を行います

JA西三河(西尾市寄住町、代表理事組合長：齋藤種治)は1月20日、西尾市へ農業施策に関する要請を行います。

JAは数年来、管区である西尾市における「農家所得の向上」と「安心して暮らせる地域づくり」をめざす「**創造的自己改革**」の方針のもと、営農事業の長期方針「地域農業ビジョン」に沿って、地域農業の発展に向け具体的な施策の実行に取り組んでいます。今回の要請は目標達成に向けた具体的な施策の検討および実行を西尾市とともに進めることが目的。JAから西尾市への農業施策に関する要請は今回が4回目となります(2016年・2018年・2019年度に続き)。

当日は、「新規就農者への支援」「施設園芸高度化への取組に対する助成の拡充」「遊休農地の管理」などの7項目からなる要請書を西尾市長へ提出し、2021年度以降の西尾市の農業施策に対して提言を行うとともに、農業情勢に関する情報交換を行います。



西尾市の中村健市長(左側)に要望書を手渡すJAの名倉組合長(2020年1月)

### 【詳細】

日時:1月20日(水) 午後3時30分～

場所:西尾市役所3階 秘書広報広聴課応接室

JA側出席者:代表理事組合長	齋藤種治
営農部長	稲垣利彦
営農部営農企画課課長	太田知宏
営農部営農企画課係長	岩瀬秀教

※要請事項のリストについては後ページに添付しています。  
取材に来られたマスコミの方には要請書の全文をお渡します。  
また後日、要請書をJAのホームページに掲載する予定です。



# JA西三河と西尾市 連携した農業振興 ～1市1JAの特色生かし、協力して「西尾の農業」振興～



## JA西三河と西尾市

JA西三河は西尾市を管轄とする総合JAです。組合員約31,312人(正・准合計)は、愛知県内にある20JA中では中規模に位置します。JAの特色のひとつとして「JAの管轄する地区と、行政(西尾市)の区域が一致していること」があり、西尾市と密接に連携しつつ、協力して西尾市の農業振興に向けた取り組みを行っています。

## 食農教育活動

JA西三河は西尾市の小学校と連携し、「米づくり体験授業」と題した食農教育活動を展開しています。

「米づくり体験授業」は、JA主体では2009年度(個別の活動としては1983年度)から継続して行っており、児童に限らず教育関係者・地域農家・住民・PTAや保護者の参加の輪も広がり、広くなじみのある行事として定着しています。

令和2年度は市内18の小学校で、①田植え、②かかしづくり、③稲刈り、④収穫祭を実施。また例年、各校では田んぼアートづくり・泥りんピック・観察記録づくり・バケツ稲との比較等、工夫をこらし独自の取組を展開しています。

毎年度末には食農教育活動に関する意見交換会を開き、学校・農業指導者・JAの全関係者・行政機関の担当者などが意識の共有を図っています。

▶写真上:米づくり体験授業 コロナ禍により花壇を利用して田植えを実施



## コロナ禍による花き業界への応援

西尾市は全国7位の花き産出額(34.4億円、2018年度)を誇る花きの盛んな街。

JA西三河・西尾市は年に4、5回、イベント時期に合わせて職員向けに「フラワーウォーク」や「フラワーギフトの販売会」を行っています。

また今年度は新型コロナウイルス感染拡大により消費が低迷している花き業界を応援し、日常生活への花の取り込み方を提案することを目的としたイベントなどを積極的に展開。JAを通じた地元産花き提供により、花のある日常を推進して地域一体となって生産者を支援しています。

▶写真上:市役所でのフラワーウォーク

写真下:ヴェルサウォーク西尾で開いたアレンジフラワー体験会



## 西尾市の農業施策に関する要望書 項目一覧

### 【1】新規就農者への支援

- (1) 新規就農準備金等の支援制度の維持拡充
- (2) 新規就農者の農地取得のサポートと遊休畑地対策

### 【2】施設園芸高度化への取組に対する助成の拡充

### 【3】次世代きゅうり選果場調査会の活動への協力

### 【4】産地PRのための情報発信

### 【5】遊休農地の管理

### 【6】スクミリングガイの被害拡大防止対策

### 【7】農地地代基準の見直しへの対応